

トルコギキョウ葉巻病の発生について

トルコギキョウにおいて、トマト黄化葉巻ウイルス(*Tomato yellow leaf curl virus*: TYLCV) によるトルコギキョウ葉巻病が本県で初めて確認された。

既に、平成17年2月にはTYLCVのトマトへの感染によるトマト黄化葉巻病が確認されている。

* 特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 トルコギキョウ葉巻病

(病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス *Tomato yellow leaf curl virus*)

2 発生経過

- (1) 平成22年11月30日、県南部地域で栽培されているトルコギキョウにおいて、草丈の伸びが悪く葉脈が浮き出た株が見つかった。
- (2) この株を、農林総合研究センターにおいてPCR法による検定を行った結果、TYLCVが検出され、トルコギキョウ葉巻病であることが確認された。
- (3) 本病害は平成11年に長崎県で確認され、静岡、愛知、山口、高知、福岡、佐賀、熊本、宮崎、大分、千葉、茨城及び群馬県で確認されているが、本県での発生は初めてである。

3 病原ウイルスの性質と病徴

- (1) 本ウイルスは、タバココナジラミによって伝搬される。成虫、幼虫ともに罹病株を吸汁することで保毒し、1～3日の潜伏期間を経て、ウイルスを伝搬する能力を有する。伝染は永続的に行われるが、経卵伝染はしない。
また、種子伝染、土壌伝染、汁液伝染はしない。
- (2) 感染が確認されている植物は、ナス科(トマト、タバコ、チョウセンアサガオ、ペチュニア等)、リンドウ科(トルコギキョウ)、キク科(ヒヤクニチソウ、ノゲシ等)、トウダイグサ科(エノキグサ等)、マメ科(インゲンマメ、ヒラマメ)、アオイ科(ウサギアオイ)、ナデシコ科(ウシハコベ)などである。
- (3) トルコギキョウにおける病徴は、新葉を含め上位葉が葉表を内側に巻葉し、葉裏の葉脈が隆起する。また抽台期においては節間が短くなり、株全体が萎縮する。開花時期に発病すると、花卉の筋が浮き上がったようになる。



発 病 株



葉裏の葉脈が隆起

4 防除対策

- (1) 本ウイルスを伝搬するタバココナジラミの発生を防ぐため、定植時の粒剤施用、生育期の薬剤散布による防除を徹底する。
- (2) 発病株は伝染源となるので、見つけ次第速やかに施設外で埋没処分する。ほ場周辺に放置しない。
- (3) タバココナジラミの生息場所となるほ場内及び周辺の雑草を除去する。
- (4) 施設栽培では、タバココナジラミの侵入を防ぐため、施設開口部に防虫ネット(0.4mm目以下)を設置する。
- (5) 発病が確認された施設では、収穫終了後10日間以上施設を密閉するなど、施設内でタバココナジラミを死滅させ、拡散防止を図る。

表 トルコギキョウに使えるコナジラミ類の防除薬剤例

農 薬 名	系 統	使用時期	使用回数
ラノーテープ	I G R	栽培期間中	1
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド	定植時	1
スタークル粒剤			
アクタラ顆粒水溶剤	ネオニコチノイド	発生初期	6
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	発生初期	4
チェス顆粒水和剤	ピリジンアゾメチン	発生初期	4

(使用基準は平成22年12月10日現在)